

★ Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo ★

# Al Vi Kara

★ Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo ★

N-ro 105, septembro 2020



## KRIZANTEMO

En septembro oni celebras Krizanteman aŭtunan feston. La flora nomo “Krizantemo” signifas fajnecon, noblecon kaj rafinitecon.

*SUITO Acuko*

# ☆ ENHAVO (目次) ☆

Ĝeneralaj Kunsidoj (総会)		p.3
Radio-programero “Kio ja estas Esperanto?” (FM 放送「エスペラントって何?」)		p.4
Koncerto kaj Ekspozicio pri Esperanto (観桜祭と観芸祭)		p.5
Elementaj kursoj de Esperanto (エスペラント入門講座)		p.6
Tagmanĝa kunveno (お食事会)		p.7
Zamenhofaj Festoj / Esperanto-Festoj (ザメンホフ祭 / エスペラント祭)		p.8
第86回世界エスペラント大会で日本の風呂敷の 包み方を披露した事など	光川 澄子	p.9
私とエスペラント	森 信秀	p.11
青山士のエスペラント碑文の字上符号は欠けているか?	六郷 恵哲	p.13
Muzeo pri infrastrukturo por lerni pri ŝanĝoj en konstrua teknologio (建設工学の変化を学ぶためのインフラミュージアム)	ROKUGO Keitetsu	p.14
El "Curezuregusa" (徒然草より)	Aikawa Setuko	p.16
エスペラント語はじめました	松村 伸一郎	p.17
吉田九洲穂と『世界の子ども』	須永 哲思	p.19
私の大切なエスペラント!	野田 淳子	p.21
Mia amata Kioto-Esperanto-Societo	Joŝii Ŝigeko	p.23
Esperantaj manieroj de “Restu Hejme!”	Tomida Narumi	p.25
Pina Fungo	Macuda joko	p.26
エスペラント語との出会い	西本 祐子	p.27

## Ĝeneralaj Kunsidoj (総会)

Kioto-Esperanto-Societo havas ĝeneralan kunsidon ĉe la komenco de ĉiu jaro. Tie oni decidas la jaran planon de agadoj.

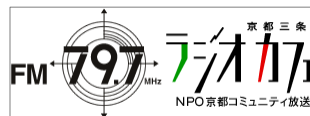
Dato (Jaro-Monato-Tago)	Nombro de la partoprenantoj	Moralaj partoprenantoj	Rimarko
2014-02-11 (mardo) 11:00 – 16:00	12	19	Video “Drama trajno de Ihatovo”, Kantoj, Decidis okazigi la 63an Kansajan Kongreson en Kioto
2015-01-12 (lundo) 10:00 – 12:00	7	17	Preparis la la 63an Kansajan Kongreson en Kioto
2016-01-10 (dimanĉo) 14:00 – 19:30	7	18	Havis interamikiĝan trinkadon post la kunsido
2017-02-18 (sabato) 14:00 – 17:00	7	14	Elspezis purigadon de Esperanto-Kaikan. Daŭrigis la radio-programeron.
2018-01-13 (sabato) 13:30 – 16:30	9	16	Fariĝis organiza membro de Radiocafe.
2019-01-12 (sabato) 10:00 – 12:00	9	17	Preparis la festivalon Kan-ou-sai.
2020-01-11 (sabato) 10:00 – 12:00	9	15	



## Informado

# Radio-programero “Kio ja estas Esperanto?” (FM 放送「エスペラントって何?」)

“FM 79.7 Kyoto Sanjoo Radiocafe” estas loka FM-elsendejo. Paginte la koston al ĝi, Kioto-Esperanto-Societo havas 6-minutan radio-programeron ekde la 9a de marto, 2016. Oni povas aŭskulti pli ol 100 fojojn da elsendoj rete.



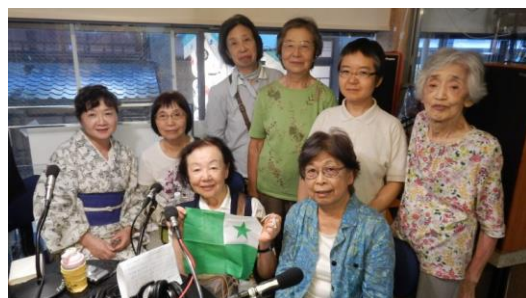
1. Dato Du fojojn monate: la dua kaj la kvara merkredo
2. Tempo De 13:04 ĝis 13:10 ptm.: 6 minutoj
3. Radie aŭskulteblas en la orienta parto de la urbego Kioto.  
Ankaŭ rete aŭskulteblas. => <http://radiocafe.jp/201603001/>



2016-10-12  
Kun vjetnamaj esperantistoj



2017-04-12  
Kun germanaj geedzoj



2018-07-25  
Kun kantoaj esperantistoj



2019-05-08  
Kun s-ro Ago Feitosa

## Informado

# Koncerto kaj Ekspozicio pri Esperanto (観桜祭と観芸祭)

La gubernio Kioto okazigas la du festivalojn jare: Kan-ou-sai (観桜祭) kaj Kan-gei-sai (観芸祭). Kioto-Esperanto-Societo aliĝis al ili por informi pri Esperanto. La loko estas la malnova parlamentejo de la gubernio Kioto.

### Kan-ou-sai (観桜祭) en Printempo

Dato (Jaro-Monato-Tago)	Enhavo	Nombro de partoprenantoj
2018-04-06/07 (dim. & sab.)	Kantoj, Temo pri Mijazawa Kenĵi, Konversacio, ktp.	16 membroj + ĉ. 100 popolanoj
2019-03-30 (sabato)	Ludo de saksofono, Kantoj, Temo pri animacia filmo, japana danco	22 membroj + ĉ. 80 popolanoj
2020	(Nuligita pro Kovim-19)	

### Kan-gei-sai (観芸祭) en Aŭtuno

Dato (Jaro-Monato-Tago)	Enhavo	Nombro de partoprenantoj
2017-10-26/27 (dim. & sab.)	Kantoj, japana danco, skeĉo, konversacio ktp.	12 membroj + multaj popolanoj
2018-10-28 (dimanĉo)	Kantoj, Ludo de saksofono, Enigmoj, Konversacio, ktp.	13 membroj + ĉ. 80 popolanoj
2019-10-26 (sabato)	Kantoj, Enigmoj, Ludo de la bando "Gaja Espero", ktp.	15 membroj + ĉ. 40 popolanoj
2020	(Nuligita pro Rekonstruado)	

2019-10-26  
Bando  
Gaja Espero

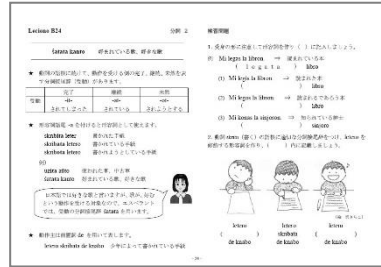


**Kurso**

# Elementaj kursoj de Esperanto (エスペラント入門講座)

Kioto-Esperanto-Societo okazigis elementan kurson de Esperanto ĉiujare.

1. Ejo      Esperanto-kaikan
2. Lernilo    Esperanto per ekzercaro  
por japanlingvaj komencantoj  
(ドリル式エスペラント入門)
3. Kosto por 6-8 fojoj da lernado  
3,000 enoj por plenaĝuloj  
1,500 enoj por studentoj



Jaro	Periodo (Monato/Tago)	Tempo	Nombro de kursanoj	Nombro de novaj membroj
2015	de 07/04 ĝis 08/08 (6 tagoj)	Ĉiusempane 10:00 – 12:00	1	0
2016	de 04/16 ĝis 05/21 (6 tagoj)		1	1
2017	de 04/08 ĝis 05/20 (7 tagoj)		3	3
2018	de 04/14 ĝis 06/02 (7 tagoj)		5	3
2019	de 04/06 ĝis 05/25 (7 tagoj)		1	1
2020	de 04/11 ĝis 05/30 (8 tagoj)		3	2

2020-06-20  
Daŭriga kurso  
Ĉiuj kun maskoj



## Tagmanĝa kunveno (お食事会)

Kioto-Esperanto-Societo okazigis la tagmanĝan kunvenon dufojojn jare. Ĝi havis sian lokon en Sunai-no-sato (寿長生の郷) en la urbo Oocu, la gubernio Ŝiga. La partoprenantoj ĝuis japanan festenan kuiraraĵon kaj te-ceremonion kun relative malkara kosto.



Japana festena kuiraraĵo

Dato (Jaro-Monato-Tago)	Nombro de la partoprenantoj	Rimarko
2018-01-28 (dimanĉo)	7	Unua okazigo de volontuloj
2018-08-18 (sabato)	8	Estas varmege.
2019-02-10 (sabato)	10	Estas malvarme.
2019-09-28 (sabato)	7	Estas varmege.
2020-02-15 (sabato)	8	Floroj de pruno floris ĉi tie kaj tie, ĉar estis pli varme ol kutime.



2018-01-28



2020-02-15

## Zamenhofaj Festoj / Esperanto-Festoj (ザメンホフ祭 / エスペラント祭)

Tri rondoj (Kioto-Esperanto-Societo, Oumi Esperanto-Societo kaj Uji/Ĵooĵoo-Esperanto-Rondo) kune okazigis Zamenhofajn Festojn ĉiujare memore al la naskiĝtago de L. L. Zamenhof, la kreinto de Esperanto.

Organizis	Dato (Jaro-Monato-Tago)	Loko	Nombro de la partoprenantoj	Rimarko
Kioto	2014-11-30 (dimanĉo) 13:30 – 16:30	Kyoto-si Kokusai Koryu Kaikan	16	Parolado “Deveno de Esperanto”
Oumi	2015-11-29 (dimanĉo) 13:30 – 16:30	Otu-si Fureai Plaza	23	S-ro MARTINEZ Ander prelegis pri Vasko
Uji/Ĵooĵoo	2016-12-03 (sabato) 13:30 – 16:30	Minami Uji Community Center	19	Prezentis la 103an Japanan Kongreson
Kioto	2017-12-09 (sabato) 13:30 – 16:30	Oyamazaki Furusato Center	21	Prezentis la 102an Universalan Kongreson
Oumi	2018-12-02 (dimanĉo) 13:30 – 16:30	Otu-si Fureai Plaza	23	Prelego pri vojaĝo en Nepalo
Uji/Ĵooĵoo	2019-11-30 (dimanĉo) 13:30 – 16:30	Minami Uji Community Center	19	Prelego pri Oomoto kaj Esperanto Enigma pri Uji

2017-12-09  
Oyamazaki





<2020年6月10日(水) 京都三条 FM ラジオカフェで放送>

## 第86回世界エスペラント大会で日本の風呂敷の包み方を披露した事など

光川 澄子 (正会員、京都市北区)

皆さま こんにちは！ 京都エスペラント会がお送りいたします「エスペラントって何？」の時間がやってまいりました。今日は、京都エスペラント会の光川澄子が、副題「第86回世界エスペラント大会で日本の風呂敷の包み方を披露した事など」をお話いたします。

~~~~~  
世界エスペラント協会主催の世界エスペラント大会が、毎年世界の何処かの国、地域で一週間開かれ、世界中の多くのエスペラント愛好者が再会を楽しみ、様々な分科会も開かれ学ぶこともできます。

今から19年前、2001年に「第86回世界エスペラント大会」が開かれたアドリア海を挟んで、イタリアの向かい側にあるクロアチア共和国の首都ザグレブは、京都の姉妹都市の1つであり、分科会に「姉妹都市交流会」が有りましたので、私は、京都在住の大ベテラン田平正子さんについて2人で参加しました。

姉妹都市交流会では、私たち2人は、風呂敷の包み方を披露する事に決め、色々な風呂敷を沢山持参しました。

深夜に着いたホテルの窓のカーテンを、翌朝開けて一瞬息を呑みました。正面に見える赤いレンガの小さなビルの壁に、大きな銃口の痕とおぼしき穴がみえました。ここは複雑な多民族間で1991年起こった戦争があったところだと知り、改めて、平和な日本に感謝しました。

さて、5日間開かれる分科会初日、参加者はヨーロッパ系の女性が多く、司会者のクロアチア人の開会挨拶につづいて、田平正さんが、風呂敷の歴史などを表情豊かに説明。次に、私が箱と瓶、かごを包んで見せると、

「なんて、自然環境にすばらしい！」という声が聞こえました。

この反応は今も忘れられません。何故って、今から20年近く前の日本、まだ環境問題にこれほど関心を寄せていなかったからです。

私たちが持参した風呂敷を参加者に配り、お教えしましたところ、真結びができない方がいらっしや、ヨーロッパでは古くからボタンが使われていて、結びの文化が盛んではなかったらしいことを知りました。

1日目が終わると、私たちに、「明日は何を教えてくれるのか」と風呂敷に興味をもって下さった様子。

まさか同じ参加者が翌日も参加されるとは考えてもいませんでしたから、この日に

披露した包み方以外覚えていません。ホテルへ帰り次第、田平正子さんの「風呂敷の包み方」の本で、別の包み方を覚え、翌日に備えました。

2日目からは、男性も交えて新しい参加者が増えました。

明日は最終日という日、認定証は無いのかと、これまた予期しない質問に、田平正子さん持参の少し大判の手すき和紙に、認定証らしき書式で田平正子さんが書き、私持参の京都の飴を一粒ずつ添えることにしました。

最終日の修了式。田平正子さんが舞台に立ち、参加者1人ひとりが田平正子さんから、小さな飴玉がちょこんと一つ乗った認定証を、うやうやしく両手で受け取っていかれる光景に私は笑いをおさえるのに、困りました。

私たち2人は姉妹都市紹介者として、市長主催の園遊会に招かれ、現地の新聞にも名前が紹介されました。

この大会でも『百聞は一見に如かず』の言葉を体験、世界の平和と自由のために、ザメンホフが創案したエスペラントが、100年余りたった今も通じることへ、一層感銘を深めました。有り難うございました。

~~~~~



la aŭtoro kaj s-ino Tahira en 2001

# 私とエスペラント

森 信秀（正会員、京都市左京区）

今から 55 年前、私は小学 5 年生でした。この年、東京で世界エスペラント大会が開催されました。その大会閉会后、参加された海外のエスペランティストの多くは、亀岡市に在る大本での歓迎祭に参加されました。

この歓迎祭に私は、少年部員として参加しました。今となつては、当時の事の記憶が薄れてしまっていますが、その中で鮮明に残っているものがあります。それは、UNU DIO、UNU MONDO、UNU INTERLINGVO の 3 つの言葉です。

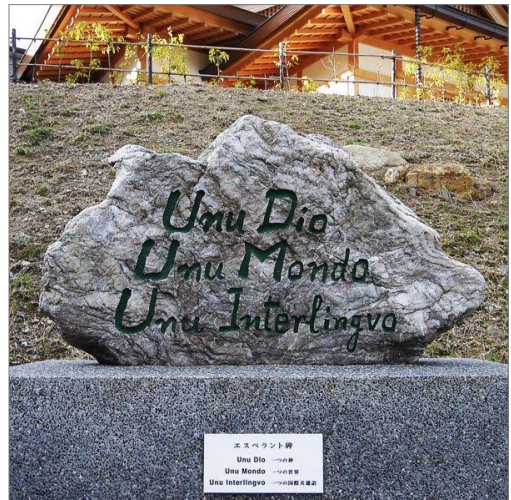
さて、この 3 つの言葉は、エスペラントの創設者ザメンホフ博士が提唱した世界平和の基盤となるものです。ザメンホフ博士の少年時代は、異民族、異言語、異宗教が取り巻く環境の中で隣人同士がいがみ合う等、様々な問題が日常化していました。このことがザメンホフ少年の心を傷つけましたが、日常化した問題解決の為に何が必要かを考えました。その結果、エスペラント語が生まれたものと言われてています。

ところで、エスペラント語が世界に公表されて 130 余年過ぎました。当時の民族紛争や大きな世界大戦を 2 度経て来ていますが、依然平和な世界はまだ手の届かないところにあります。

今尚、地球上には世界経済戦争や民族紛争が生じています。且つ、世界中の人々を恐怖に陥れている新型コロナウイルスが蔓延して、感染症のパンデミックを引き起こしています。これらの異変により、今後世界の動向がどのような状況になっていくのかと、誰もが心配と不安にかられています。



la aŭtoro



<http://www.oomoto.or.jp/Esperanto/esperanto/>

(次頁へ)

この状況の中、世界が明るい未来を築いていく為に何が必要かを考えると、ザメンホフ博士が夢見た世界共通の言葉「エスペラント語」が一つあると思います。つまり、世界の人々が安心して生活が出来るには、人と人との心を繋ぐ役割の言葉が必至。その言葉の共通言語が必要不可欠なものだと思います。それゆえ、共通言語となるべきものがエスペラント語であると私は思います。

具体的には、世界平和を切に願う人々に対してエスペラント語が必要不可欠であることを理解、認識してもらう為、エスペラント語の普及・宣伝することが必要であると思います。

その普及・宣伝の展開後、この人々の平和への活動が、これまで停滞していたエスペラント語の世界的普及に貢献し、エスペラント語が大きく花開く時がやってくるものと信じています。と、勝手に想像しながらエスペラント語の未来を思い描いています。

最後に、私は、エスペラント語を習い始めて3年目の新参者ですが、趣味の音楽とコラボして微力ながらもエスペラント語の普及活動を行っていきたいと思っていますところ。

## 追記

趣味の音楽についてですが。私は、60歳の手習いとして、木管楽器のサクスを習い始めました。当初の音楽レベルは、義務教育で学んだ程度のもので楽譜を読むのも四苦八苦の状態でした。しかし、半年過ぎて人前(身内のみ)で演奏し、1年過ぎてからは人前で、さらにライブハウスで恥をかきながらも演奏しました。それ以後は、ミニファミリーコンサートを1年に1回(5回実施)や小学校のクラス会。そして、添付写真の定年後の会社同期会(瓢亭の本店に於)等々で演奏してきました。

しかし、今年に入ってコロナ禍の影響で3月から3か月間レッスンがお休み。また、私のサクス練習場所のカラオケ店がコロナの影響で閉店。と、ほぼサクスの音無し状態になってしまいました。そして、6月に入って、やっとレッスンが再開となりましたが、久しぶりにサクスを吹けたことに、これまでの当り前のことがどれほど有難いことかを実感した次第です。

今、この有難みを感じながら、私の夢であるバンド演奏実現に向けてサクスの練習をどうにか進めているところです。そのバンドとは、ボーカル、ドラム、ベース、ピアノ(担当-妻)、サクス(担当-私)の5名のメンバーで編成するものです。そして、このバンドメンバーが結成された暁には、人前で演奏すること。このことを夢見ながら、足下を音楽とエスペラント語のコラボによるエスペラント語の普及・宣伝に努めていきたいと思っています。

終わり

# 青山士のエスペラント碑文の字上符号は欠けているか？

六郷 恵哲（正会員、岐阜市）

青山士（あおやま あきら、1878～1963）は、大正から戦前にかけて活躍した土木技術者であり、ウィキペディアでは次のように紹介されている。

- ・東京帝国大学工科大学卒業後に渡米し、パナマ運河建設に携わった。
- ・内務省の新潟土木出張所の所長として 信濃川大河津分水路改修工事を完成させた。
- ・内務省の技官のトップを務めるとともに、土木学会では会長を務めた。

新潟県にある大河津分水路の改修工事竣工記念碑の表側に「萬象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ／“FELIĈAJ ESTAS TIUJ KIUJ VIDAS LA VOLON DE DIO EN NATURO”」、裏側に「人類ノ為メ國ノ為メ／“POR HOMARO KAJ PATRUJO”」と刻まれている。両方の言語がわかると、理解が深まる。このエスペラント碑文のことを紹介した日本エスペラント学会写真館の情報（図-1）では、Mankas supersigno por “FELIĈAJ”と小さく記載されている。文字 C の上に字上符号「^」が欠けていると、ずっと残念に思っていた。



銘板の左下隅を拡大

[http://www.hh.e-mansion.com/~sibazyun/foto/foto\\_zeo.htm](http://www.hh.e-mansion.com/~sibazyun/foto/foto_zeo.htm)



図-1 記念碑のエスペラント碑文（日本エスペラント学会写真館より）

大河津分水路、資料館、竣工記念碑を 2019 年 11 月に訪ねた。その時に撮った記念碑の写真（図-2）では、銘板の表面は綺麗に清掃されており、“FELIĈAJ”の Ĉ の字上符号を読み取れた。図-1 では、銘板の錆と汚れと光の関係で、字上符号が判別しにくかったものと思われる。もう一度訪ねる機会があれば、近づいてしっかり確認したい。



左下隅を拡大



図-2 筆者が撮影した記念碑の写真

# Muzeo pri infrastrukturo por lerni pri ŝanĝoj en konstrua teknologio

ROKUGO Keitetsu

## Muzeo pri infrastrukturo

Muzeo pri infrastrukturo estis konstruita kiel strukturo por lerni pri ŝanĝoj en konstrua teknologio sur la kampuso de Gifu Universitato en aŭgusto 2017 (Foto 1). La muzeo konsistas el tunela modelo, betonponta modelo, ŝtalponta modelo kaj grundstruktura modelo. Vizitantoj povas alproksimiĝi al la modeloj en sekura loko kaj lerni pri la interna strukturo. Ĉi tiu muzeo estas uzata ne nur en klasoj kaj eksperimentoj ĉe la universitato, sed ankaŭ en trejnadaj de kompanioj kaj edukaj institucioj.



Vidu la noton en la paĝo 18.

Foto 1 Infrastruktura muzeo en Gifu Universitato

## Tunela modelo

La tunela modelo estis konstruita en stato, kie la tunela transversa sekcio (4.5x3.5m, Foto 2) estis tranĉita kaj kuŝita. Oni povas vidi la diferencon inter la konvencia konstrua metodo per lignaj tabuloj kaj la NATM (Nova Aŭstra Tunela



Foto 2 Tunela modelo

Metodo) konstrua metodo. En la konvencia konstrua metodo, la ŝarĝo de la ĉirkaŭa roko estas subtenata de ŝtalaj subteniloj kaj dika betona tego. En la NATM konstrua metodo, betono estas surmetita sur la tunela surfaco tuj post fosado por eviti kolapson de la surfaco, kaj rokrigiloj (aŭ ŝtalaj vergoj) estas enmetitaj por stabiligi la rokon ĉirkaŭ la tunelo.

## Betonponta modelo

Betonaj strukturoj inkluzivas ŝtalbetonan (aŭ armitan betonon, aŭ ferbetonan) strukturon kaj prembetonan (aŭ antaŭstreĉitan betonon) strukturon. La prembetona strukturo estas fabrikita per la antaŭpremita aŭ postpremita metodo. La modelo (4.4x15.6m, Foto 3) konsistas el kvar prembetonaj trabegoj fabrikitaj per la antaŭpremita metodo. Por lernado, la trabegoj ekipas aparatojn por fiksi kablojn uzitajn en la postpremita metodo. Ĉi tiu modelo estas ekipita kun kaŭĉukaj subteniloj, ekspansiaj aparatoj, muraj balustradoj, sekurecaj bariloj, drenaj kloakoj kaj aliaj akcesoraĵoj. Oni povas lerni pri gravaj aferoj por bontenado de infrastrukturoj.



Foto 3 Betonponta modelo

## Ŝtalponta modelo

La modelo reproduktas la finan parton de ŝtalplataj trabegoj (3.5x5.6m, Foto 4). La modelo korpigas diversajn detalojn kiel kontraŭ-kliniĝajn membrojn kaj transversajn trabojn. Oni povas kompreni diversajn strukturajn teknologiojn adoptitajn en ŝtalpontoj. Oni povas praktiki ne-detruajn testojn pri veldaj difektoj okazantaj dum fabrikado de ŝtalponto. Oni povas lerni pri ŝtalbetona slabo kaj prembetona slabo metita sur la trabegoj.



Foto 4 Ŝtalponta modelo kun slabo

## Grundstruktura modelo

Ĉi tiu grundstruktura modelo (6.3x10m, Foto 5) estas konstruita kombinante kradsfortigitan grundon, betonblokan subtenantmuron, gravitan subtenantmuron, L-forman subtenantmuron, malpezan grundon kaj aliajn.

La metodo de la kradsfortigita grundo uzas la altan tirrezistecon de la krado por plifortigi la grundon. Oni povas vidi la lamenigitan transversan sekcion. La malpeza grundo konsistas el uretanaj ŝaŭmoj, ankroj, muraj materialoj kaj premaj teleroj.



Foto 5 Grundstruktura modelo

## El "Curezuregusa\*"

Joŝida Kenko

Estis viro, kiu estis fama kiel lerta arbo-grimpanto. Iam li ordonis al sia subulo grimpi altan arbon kaj fortranĉi branĉojn. Dum la subulo laboris en danĝera loko, li nenion diris. Post la laboro la subulo grimpis malsupren kaj atingis alton de tegmento de porĉo. Tiam la lertulo diris al la subulo, "Ne fuŝu! Atente venu malsupren." La subulo demandis lin, "Ĉe tia alto mi povus eĉ salte surteriĝi. Kial vi nun diras tion?" Li respondis, "Jen la kialo: kiam oni sentas kapturton kaj danĝeron sur la branĉo, oni mem atentigas pro timo, kaj tial mi diris nenion. Fuŝo okazas ĉiam, kiam la situacio fariĝis pli facila."

Li estas malnobla viro sen ia rango, sed liaj vortoj samas kiel instruo de klerulo. Ankaŭ en okazo de pilkoludo\*\*, post kiam la ludanto elkikis la pilkon el malfacila loko, la pilko certe falas, se li la pluan kikadon pensas facila.

\*Curezuregusa estas eseero verkita en la 14-a jarcento. Ĝi konsistas el 244 mallongaj eseoj. Supre mi citas la 109-an eseon.

\*\* Ĉi tie "pilkoludo" signifas sporton nomatan "kemari". Ĝi devenas de antikva Ĉinio kaj estis ludataj de japanaj nobeloj ekde pli ol mil jaroj. La pilko estas farita el ledeto de cervo. La ludantoj portas ledajn ŝuojn kaj batas la pilkon alten per piedo. Unu ludanto batlevas la pilkon kaj la falantan pilkon alia ludanto rebatas supren per sia piedo. Ju pli multfoje la pilko estas levata sen tuŝi la teron, des pli la ludantoj estas alte taksataj.

(Tradukis kaj komentis Aikawa Setuko)

## 徒然草より

吉田兼好

高名 (かうみやう) の木登りといひし男 (をのこ)、人を掙 (おきて) て、高き木に登せて、梢を切らせしに、いと危ふく見えしほどは言ふ事もなくて、降るゝ時に、軒長 (のきたけ) ばかりに成りて、「あやまちすな。心して降りよ」と言葉をかけ侍 (はべり) しを、「かばかりになりては、飛び降るとも降りなん。如何にかく言ふぞ」と申し侍りしかば、「その事に候ふ。目くるめき、枝危きほどは、己れが恐れ侍れば、申さず。あやまちは、安き所に成りて、必ず仕 (つかまつ) る事に候ふ」と言ふ。

あやしき下臈 (げらふ) なれども、聖人の戒 (いまし) めにかなへり。鞆 (まり) も、難 (かた) き所を蹴 (け) 出 (い) だして後、安く思へば必ず落つと侍るやらん。 (百九段)



<2020年9月9日(水) 京都三条 FM ラジオカフェで放送>

## エスペラント語はじめました

松村 伸一郎 (正会員、京都市山科区)

この(令和2年)4月から入門講座でお世話になり、六月からは京都エスペラント会に入会し、今は土曜日の例会で教えていただいています。まだ初心者までも行けてません。こんなことを聞かれます。「エスペラント語を始めた理由は何?」、これは多いです。「特にない。」と答えます。「高い志も理想もないし、今更海外に雄飛する・・・でもないし。」ということです。



昨年の11月の末に母が90才でなくなったのですが、春頃はまだ出歩くことができました。あるとき、「エスペラント語ってなんや。中立売でもらったんやけど。」と、パンフレットを見せてくれました。「まあ、外国語かな。」と、「どこの国の言葉なんや。」と続きます。「ザメンホフという人が100年か200年前に作った言葉というか、まあ言語やな。」「言葉なんか作れるのか。」「世の中には賢い人がいるもので、できる人にはできるんやろな。けど、そのころは、ドイツとかフランスでは言葉を作るのが流行ってて、結構作ってたらしいで。今、残ってるのはエスペラントと、もう一つか二つぐらいらしいけど。」「まあ、これあげるわ。」というような会話をしていたと思います。今年の3月中頃、このパンフレットを再発見、「4月～5月土曜日入門講座3000円。」につられ、担当の方にメールを送り、事始めということになりました。

入門講座で使われている教材「ドリル式エスペラント入門」はよくできていて、わかりやすいです。が、この年(64才です)になって一回で覚えられるはずもなく、忙しいということもないのですが、そんなに努力するわけでもないの道は遠いと思います。

単語が覚えられません。年なのか、努力不足なのか、まあ両方だと思います。Sunday、Monday、Tuesday、Wednesday・・・が覚えられなくて困ったことを思い出します。中学一年生でした。単語を覚えるのはもともと苦手でした。英語では綴りと発音が違うことがあるのがやっかいです。英語にはいろいろな言葉が入り込んでいます。これもやっかいです。「日曜日の日はSunだからSunday、月曜日の月はmoonだからMonday、だったら、火曜日は、火星だからM～、水曜日は水星だからやはりM～となるはずだ。おかしい。」とか思ったりしていました。エスペラント語では、火星

Marso・火曜日 Mardo、「おっ。」三月は英語で March、エスペラント語では Marto、ラテン語の Mars (ローマ時代の神様ですね)。水星 Merkuro・水曜日 Merkredo「おっ。」と思ったりします。月曜日は lundo・月 luno でした。国語(日本語)と英語以外を学んだことがない者にとってはなかなか新鮮です。エスペラント語はヨーロッパの言葉がベースになっていることがわかります。他に 10 dek ,100 cent、1000 mil とか、元素記号 Na のナトリウム、英語は Sodium エスペラント語では Natrio、水銀 Hg は Mercury と Hidrargo、鉄 Fe は Iron と Fero、多分そうだろうなと思ってはいましたが、実際に使われているのを見ると「やっぱりね。」と思います。

La hundo estas bela.これはわかります。Du hundoj estas belaj. 形容詞の複数形、なかなかないです。Du hundoj kaj kato estas en la parko. Ili estas belaj. こんな文があるかどうかはわかりませんが、これなら belaj とする理由がわかります。hundo と kato が区別できます。それはそうなのですが、「かといって、そううまくは。」となります。わかるよりも「読んで、話して、慣れる。」が肝心なのだと思います。

エスペラント語、新鮮です。「どこで使うの。」と聞かれます。「わかりません。」と答えます。元々深い考えはありません。一年後、二年後どうなっているのでしょうか。

(終)

## Nota

p.14 の QR コードをスマートフォンでスキャンすれば、「岐阜大学インフラミュージアム しくみや構造が学べる大型構造物モデル」を 360 度の写真で見ることができます。

<https://sky.theta360.biz/t/f3422490-c7c7-11e8-9e3f-06a40e1ec334-1>

# 吉田九洲穂と『世界の子ども』

須永 哲思<sup>きとし</sup>（正会員、京都市左京区）

「この資料（次頁 **写真 2**）がどうしても読みたい！ どうやらエスペラントらしい…」  
ということで、京都エスペラント会の初級講座に参加することにしたのが 2017 年春  
（当時大学院の博士課程）のことでした。

元々、私が研究テーマとして調べていたのは、「生活綴方」という日本の戦前・戦後の教育運動でした。生活綴方とは、子どもに自分の生活に関する「作文」を綴ってもらい、作文を集めて「文集」を作りそれをみんなで読みあいながら勉強を進める、という教育運動で、戦前は治安維持法違反を理由に弾圧されてしまいました。1950 年代に生活綴方が再び隆盛する中で、日本全国の子どもたちの作文を集めて編集した社会科副教材『綴方風土記』（全 9 巻、1952-55 年）が平凡社から刊行されました。その続編として、エスペランチストを介して世界中から子どもたちの作文を集めて作られたのが、『世界の子ども』（全 15 巻、平凡社、1955-57 年）です。そして、『綴方風土記』『世界の子ども』を平凡社編集部の企画編集長として主導したのが、故・吉田九洲穂氏（1923-2014、**写真 1**）でした。吉田氏が東京・ひばりヶ丘のご自宅に保管されていた『世界の子ども』に関する膨大な編集資料の中にはエスペラントで綴られた多くの資料が含まれていました。資料の整理・検討を進めれば進むほど、「このエスペラント資料を読みたい、吉田氏の仕事や足跡を追ってみたい」という思いが募っていきました。私をエスペラントの世界に引き合わせてくれたのは、吉田氏の導きでした。

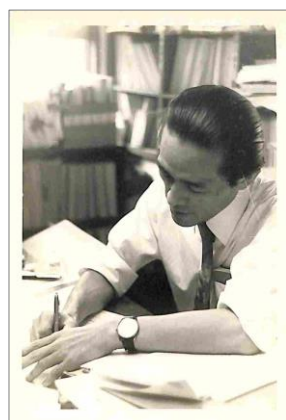


写真 1：  
吉田九洲穂氏肖像  
（吉田匠氏所蔵）

資料の整理はまだ途中なのですが、これまでの研究成果の一部は、駒込武編『生活綴り方で編む「戦後史」』（岩波書店、2020 年）という共同研究としてまとめることができました。1950 年代の生活綴方運動とエスペラント運動の接点を研究する過程で、吉田氏が学んだ京都人文学園のエスペラント講師であり『世界の子ども』編集部にも所属した栗栖継氏を媒介に、ブルギニョン（H. Bourguignon）編集・長谷川テル協力による 1930 年代の児童文学雑誌『Infanoj sur Tutmondo [世界の子供]』と 1950 年代の平凡社『La Infanoj de la Mondo [世界の子ども]』はつながっているはずだ、と考えるようになりました。エスペラントによる通信記録や資料の検討は、辞書を引き引き読み進めていくためになかなか進まないのですが、1950 年代のエスペラントをめぐる熱気が感じられて楽しいです！ 今後も研究を深めていきたいと考えています。

# La Infanoj de la Mondo

INTERNACIA INFORMILO

「世界の子ども」  
国際通信

Redakcio kaj Administracio:  
«Infanoj de la Mondo»,  
ĉe Infana Fako de HEIBONSYA,  
Yonbantyo, Tiyodaku, Tokio, JAPANUJO.

N<sup>o</sup> 4 DECEMBRO, 1954. Aperas dumonate. Specimeno: 2 ekz. kontraŭ 1 resp. kuponon. Jarabono: 3 resp. kuponoj.

## Ni raportas pri la Franca Volumo

Kun profunda danko ni salutas al ĉiuj niaj kunlaborantoj, gesamideanoj, geinstruistoj kaj gepatroj, kiuj gvidas infanojn por kontribui al nia afero.

Je la franca volumo, kiun ni difinis en nia projekto unuavice eldoni, ni jam eniris kompilan procedon, fininte la kolektadon de infanaj verkaĵoj en la fino de oktobro. Tio estas antaŭ ĉio dank'al la sindona kunlaborado de simpatiaj samideanoj en Francujo. Ni volas esprimi ĉi, tie koran dankon al ili.

Ni pensis, ke estas necese precize raportiti ĉi-okaze, kiamaniere ni kunlaboris kun la francaj gesamideanoj por atingi la celon, kiamaniere kolektiĝis la infanaj verkaĵoj el Francujo kaj kiomgrade ni povis efektiviĝi la projekton, k.t.p. Sed ni konvinkiĝis, ke nun ankoraŭ neeble estas tion fari, ĉar ni mem ne estas detale informitaj, ne havante tempon traesplori la tutan aferon.

Ni volus unue aŭdi de la francaj samideanoj, kiuj energie laboris kiel centro de l'kolektado, pri iliaj spertoj. Ni volus aŭdi de iu instruisto aŭ instruistino, kiu mem gvidis la infanojn, kiajn malfacilaĵojn ili havis por verkigi tiajn verkaĵojn, kiajn ni pripetis por nia libro.

Ni konkludis, ke pri kolektado de infanaj verkaĵoj por franca volumo ni petu raporton de francaj kunlaborantoj, ĉar ĉi ne estas nura informilo de l'redakcio de «Infanoj de la Mondo» sed estas komuna loko por komunikiĝo de l'tuta kunlaborantaro de l'afero.

Do, ĉi tie ni raportos nur konture kiel progresis la afero.

Unu el la korespondantoj de nia redakcio havis de longe unu korespondamikon en Francujo, t.e. franca instruistino, F-ino Pascal kaj, kiam la ideo pri geografia libraro el infanaj verkaĵetoj

fariĝis efektiva plano de l' eldono, li unue alvokis ŝin por peti ŝian helpon. Ŝi konatigis al ni kiel plej kapablan kunlaboranton, S-ron Frosard, verkisto, kiu havis intereson pri verkado de lernejoj geknaboj en Francujo.

En la somero de 1953 ni eldonis libreton «El Japana Lando kaj Popolo» por diskonigi nian entreprenon kaj alvoki kunlaboron de ĉiulandaj esperantistoj. Multaj ekzempleroj estis dissenditaj. La eho estis granda. Multaj leteroj komencis venadi, kio multe

kuraĝigis nin. El Francujo multaj miriagrafe presitaj lernejoj gazetoj kun infanaj verkaĵetoj estis senditaj. Ankaŭ multaj japanaj esperantistoj proponis kunlaboron, kaj inter ili troviĝis kelkaj, kiuj korespondadis kun francaj geinstruistoj kaj interŝanĝadis infanajn verkaĵojn. Tiel la kolektado de infanaj verkaĵoj komenciĝis kaj pli kaj pli larĝiĝis la vojo.

Dume la redakcio suferis mankon de manoj por korespondado kaj en la fino de Aprilo 1954 3 esperantistoj eniris la redakcion. De tiam komenciĝis intensa

laboro por efektivigo de la plano kaj surreliĝis la afero. Ni faris diversajn presaĵojn por doni ĝustan kompton pri nia intenco, komencis eldoni Informilon «La Infanoj de la Mondo» por la tuta kunlaborantaro, komencis amasan korespondadon por kolektado de kontribuoj. Ni povas diri, ke nur tiam la plano fariĝis efektiva eldonplano.

Sed tiam ni jam devis suferi premadon de tempo. Ni devis kiel eble rapide realigi la planon, baldaŭ eldoni unuan libron. Tio estas nerifuzebla financa postulo de l'eldonejo, ĉar la eldonejo ne povas toleri senlime nur espezadi. Jen estis la unua malfacilaĵo. La dua malfacilaĵo estis diverseco de opinioj de edukistoj pri la infana verkado en ĉiuj landoj, kio multe malhelpis kom-



Ĉe fiŝkaptara haveno en Bretagne, Franrujo

# 私の大切なエスペラント！

野田 淳子（正会員、京都市東山区）

6年ぶりに Al Vi Kara が発行されますこと、うれしい気持ちでいっぱいです。2009年の入門講座に参加、京都エスペラントに入会して10年経ちました。エスペラントを知ったのはエスペランティストの生涯を歌にしたからでした。それから学習を始めたのですが、音楽と深いつながりも広がりました。

2011年に、ぜひエスペラントで歌ったら？とMさんが各地に推薦してくださいました。その年の神戸での関西エスペラント大会の公開番組で初めて歌わせていただきました。写真は記念すべき第1回目の出演のものです。秋には中国四国大会と吹田の文化祭で歌わせていただきました。



<その後の活動>

・2012年

関西大会（大阪）公開番組

・2013年

京都エス会の皆さんの推薦で、

日本大会（千葉）公開番組

写真は海外からのお客様ヨーモさんとのツーショット

・2014年

関西大会（姫路）、日本大会（小浜）

いずれも公開番組

姫路の峰芳隆さんが、その後亡くなられたこと、本当に残念で悲しいことでした。

・2015年

関西大会（京都）公開番組

夫の作業苑の仲間のミュージックベルの演奏と共演  
吹田の文化祭再度出演



・2016年

日本大会（滋賀）公開番組で琵琶湖よし笛の皆さんと共演

・2018年

関西大会 Tさんと初めて組んで分科会に参加

第2回日韓合同大会開会式での演奏、分科会

吹田文化祭3回目

・2019年

関西大会分科会

秋の日本大会（埼玉）は台風で出演出来ず

<これからの予定>

・2020年11月 関西大会（高槻）公開番組

・2021年9月 日本大会（広島）

こんなに何回も呼んでいただけて、本当に幸せにありがたく思っています。

鹿児島の女医さんが憲法9条を歌にして世界中の言葉でCD『地球星II』を出されて、エスペラント語は私が歌っております。

歌の詞のエス訳では、亡くなられた小西岳さんを始め、島谷剛さん、ベルモントさんに大変お世話になっています。心から感謝しております。これからも美しい正確な発音で歌えるよう努めます。会話にも力を入れます。

皆さん、どうぞよろしくお願ひします！

（終）



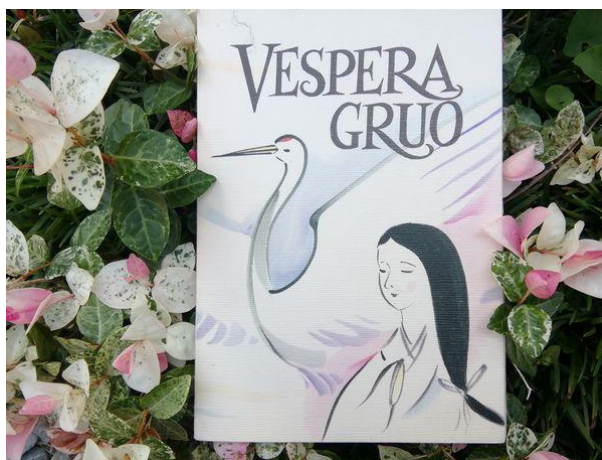
Vinberoj

# Mia amata Kioto-Esperanto-Societo

Joŝii Ŝigeko (Urbo Nagahama)

Ĉi-printempe, mi estas feliĉa, ke mi povis aliĝi al mia amata Kioto-Esperanto-Societo. Mi povas ĉeesti en kunsidoj de KES per skajpo sub la influo de Koronaviruso. “Malfeliĉo ŝanĝiĝis en feliĉon !” Ĉar Kioto estas malproksima de mia urbo.

Tiu tago finfine alvenis. Gvidanto estas S-ino Aikawa Setuko. Ĉiuj membroj bonvenigis min. Mi ĝojege malfermis libron titolitan “VESPERA GRUO”.



Mi bone scias la rakonton de Tū kaj Yohyō. Sed en lernado, la vortoj de Yohyō pli kaj pli iritis min. Kiel stulta Yohyō estas !

Kiam mi pensis pri la kompatinda Tū, pluvegis ekstere de tiu tago. Mia edzo trovis testudon, kiun marŝis meze de vojo. Kaj li metis milde en rivero ĝin. Ĉar ĝi estos surveturita de aŭto.



Baldaŭ la testudo venis antaŭ la vestiblon de mia domo. Ho! Kia surprizo! Ni estis tre surprizitaj. Eble ĝi venis pro danki, ĉu ne?

Post du tagoj, mia edzo denove havis la samon. Daŭris pluvegi en tiu tago. Ho! Ankaŭ la testudo estis ! La ĉarma testudo venis ankoraŭfoje nian domon. Kiel imitinda ĝi estas !

Abrupte maltrankvilo min okupis, ke mia edzo fariĝos trea avo. Sed tio ne estis necesa, ĉar li estas jam maljunulo.

Post tiuj mirigaj tagoj, denove mi estis surprizita, ĉar mi vidis mian ĝardenon. Lotusfloro bele floris, kiel vidi en la Lotusa Lago de Rjuguĵo. Kaj el la oraj lotuspistiloj aromo superfluadis senĉese.



Gruo kaj testudo kondukis min en la interesa mondo. Kiel bonaj Gruo (Tū) kaj Testudo estas ! Ne nur fabeloj, sed ankaŭ faktoj estas tre interesaj kaj strangaj ! “VESPERA GRUO” Mi neniam forgesos lerni ĉi tiun libron.

Kiel feliĉa mi estas !

(Fino)



# Esperantaj manieroj de “Restu Hejme!”

(el la radioelsendo en la 27a de majo)

Tomida Narumi (Kioto)

En Gubernio Kioto, La deklaro de la urĝa situacio nuliĝis en la 21a de majo. Ni elkore diru konsolon al ĉiu, kiu forpasis pro la kronviruso, kaj deziru, ke ĉiu, kiu estas luktanta kun tiu malsano, resaniĝu kiel eble plej rapide. Kaj, ni dankegas ĉiujn, kiuj penas subteni nian vivon pro iliaj fervoraj laboroj. Aldone, ni ankaŭ deziras, ke ĉiu, kiu estis damaĝita de la kronviruso, rapide kaj sufiĉe akiru diversajn helpojn por rebonigi iliajn vundojn.

Nu, en Eŭropo, oni havis tre severan limigadon pri eliro de hejmo pro la infektado de la kronviruso. Kiel miaj geamikoj tie pasigis ĝin? Mi volas prezenti al vi iliajn manierojn pere de iliaj leteroj. En Esperanto, “Stey home!” estas dirita “Restu Hejme!”.

La unua parolanto estas Helga, germano. Ŝi ricevis provon de la kovim-19 kun sia edzo lasta-aprile. Ŝi diras sian sperton tiel, “Sur la vojo al nia hejmo post la provo, mia edzo aĉetis freŝan panon kaj manĝis ĝin kaj li donis al mi malgrandan bukedon. Tre feliĉe al ni estas, ke la rezulto de ĉiu provo estis negativa. Nun ni pasigas tagojn nur en hejmo, kaj de tempo al tempo, mi eliras al nia ĝardeno. Sub la brilanta suno, mi laboras en mia paradiza printempa ĝardeno, kaj hieraŭ mi nombris 135 tulipojn tie. Mia edzo aĉetas necesaĵojn de la vivo al mi, kaj mi kuiras bongustan salaton per freŝaj herboj en mia ĝardeno kaj legomoj. En mia ĝardeno, plantoj kreskas kaj floroj floras kiel miraklo.”

La dua estas Ĵonel, anglo : Mi legas multe, studas Esperanton, ĉeestas en la interreta desegnaĵa kurso, kaj tage partoprenas en la Romaj Katolikaj Mesoj ankaŭ per interreto. Mia edzino laboras multe en nia ĝardeno. Nun estas la sezono por semi semojn. Kaj evite amasojn, ĉiutage dum 1 horo, je la sesa horo, ni marŝas tra parko en arbaron. Ni ne scias tion, kion ni faros kiam pluvos! Ni aĉetas niajn manĝaĵojn de vendejoj, kiuj domliveras ilin, aŭ la membroj de loka helpgrupo aĉetas ilin por ni. Ni kuiras kaj manĝas ilin hejme. Ofte ni parolas kun niaj genepoj per interreto-Zoom.

Dito, franco, parolas tiel: Mi laboras per komputilo en hejmo kaj havas plurajn projektojn. Kaj ĉar mi estas abelbredisto, mi havas rajton iri eksteren al miaj abelejoj. Do, mia tempo pasas rapide. Mi laboras nur en majo kaj junio por fari mielon kaj

[ al la paĝo 26 ]

# Pina Fungo

Macuda joko (Kioto)

Baldaŭ venos atendata sezono por pinfungoj. Antaŭ 15 jaroj mi fariĝis membro de la grupo, kiu agadas por revivigi pinarbajn fungojn en Kioto. La grupo estis organizita de la specialisto, kiu sukcese revigligis la produktadon de pinfungoj ĝis preskaŭ duobla en Iwaizumi, en la gubernio Iwate. Lastjare, unuafoje ni rikoltis 26 pinfungojn post pena kaj atenta zorgado longedaŭra pri la tri montetoj per volontuloj fervoraj.

Hodiaŭ tuthazarde venis novaĵo pri pinarba fungo de Koreio, de Songanta, kiu estis vaste konata en japana esperantujo pro sia lerta kaj ĉarma instrumano. La edzo, Dalmini, antaŭe estis foto-ĵurnalisto, kiu transloĝiĝis al la kampara vilaĝo forcedinte konkurencon vivstilon en Seulo. Laŭ Songanta li estas nun tre feliĉa terkulturisto, sukcesis kultivi mirtelojn, kiuj vendiĝis je alta prezo. Aldone, baldaŭ komenciĝos la sezono por pluki pinarbajn fungojn, kiujn multaj aĉetontoj jam viciĝas. Ilia vilaĝo troviĝas en la Natura Parko, kie kutime oni ne estas permesite preni iu ajn plantojn. Tamen la ŝtato ekstraordinare donas al la vilaĝanoj en la regiono per la oficiala kontrakto, favoran permeson provizore dum du monatoj ĉiujare por pluki sovaĝajn pinarbajn fungojn, ĉar la vilaĝanoj kutime dediĉas sin zorgi la montarojn kaj helpas estingi fajron ktp.

Ŝajne pinarbaj fungoj havas ion speciale allogan al homoj kaj pro tio, oni diligente zorgas la arbarojn, kaj la naturo redonas benatajn fungojn al homoj.

(Fino)

---

[ el la paĝo 25 ]

bredi novajn esamenojn. Lastjare, mi rikoltis 28kg-jn da mielo. Tio estas sufiĉe multe por nia manĝo tra jaro kaj vendo.

Laste, Nazare, brazilano sendis belan bildon kun ŝia mesaĝo - "Neeblas esti feliĉa sola". En tiu bildo, geknaboj ĉirkaŭas la terglobon manon en mano.

Kiel tio, Esperanto samtempe povas ligi nin kun geamikoj, kiuj uzas diferencajn lingvojn en diferencaj landoj, kaj ni ankaŭ povas kuraĝigi reciproke per tiu lingvo, kiam ni estas sub tre malfacila situacio. Mi klare kaj reale sciis, pro tiu interrilato pri "Restu Hejme", ke tio estas la plej granda fortikeco de Esperanto.

(Fino)

# エスペラント語との出会い

西本 祐子（正会員、大阪市北区）

エスペラント語の出会いは野田淳子さんの唄を聴いてキレイな言葉だなんて感動して歌いたいなって思ったのが始まりです。なかなか平日のレッスンしかなく参加できなかったのが、コロナのことでフレックスタイムの仕事の期間に web でのレッスンが始まり、今年 5 月の土曜日の午前中に参加できて始めることができました。今も月曜日に web でレッスンをさせていただいてフォローで参加してくださっているかたも優しく楽しく学んでいます。

現在働きながらアーティストを応援すべく、「うずめ」（大阪市北区）というサロンを運営して世界とつながるべくパワーアーティスト協会を立ち上げたところで、ロゴも世界とつながるべくエスペラント語も入れさせていただきました。森川さんに添削していただき感謝です。

将来はエスペラント語を話せるようになって、世界の方々とつながり、愛あふれる地球、世界の人々と手を繋げるように文化を広げたい。



このロゴにエスペラント文も入っています

Kiam mi aŭdis la kanton de Noda Ĵunko, mi renkontis belajn vortojn en Esperanto. Mi ekpensis, ke mi volas kanti en Esperanto. Mi ne povis ĉeesti en labortagaj kursoj. Pro la kronviruso, mi povis komenci lecionon per la reto dum mia flekstempa laboro kaj mi lernis Esperanton matene ĉiusabate en lasta majo. Nun Mi ankoraŭ ĉeestas en kurso per la interreto. Aliaj kursanoj estas ankaŭ afablaj kaj mi povas amuze lerni ĝin.

Por subteni artistojn mi funkciigis salonon nomatan “Uzume”, Kita-ku, Osaka. Por ligi kun la mondo mi ĵus fondis la Asocion de Potencaj Artistoj. Mi ankaŭ metis Esperantan nomon en la emblemon por konekti kun la mondo. Mi dankas sinjoron Morikawa pro la korektado.

En la estonteco mi povos paroli Esperanton por konekti kun homoj en la mondo. Mi volas plivastigi nian kulturon por ke ni povu ligi kun la homoj de la mondo, la Tero plena de amo.

(Fino)

※エスペラント文はまず Google 翻訳を行い、それに手を入れたものです。（編集子）

## エスペラント会館での会合

名称	日時		内容
エスペラントおしゃべり会	毎週月曜日	午後 6 時 30 分 ～8 時 30 分	・ 田平正子さんが主催 ・ 費用は 1 回 300 円
京都エスペラント会 水曜例会	毎週水曜日	午後 2～4 時	・ 輪読 ・ La Movado 発送作業
京都エスペラント会 土曜例会	毎週土曜日	午前 10～12 時	・ 輪読 ・ やさしい作文

## ウェブ講座

名称	日時		内容
月曜講座	毎週月曜日	午後 7 時 30 分～8 時 30 分	初級講座

## EL LA REDAKTORO

Koran dankon pro via 6-jara atendado, ĉar la lasta numero aperis en julio, 2014. Nun ni sukcesis eldoni n-ron 105. Estas notinde, ke kontribuis 14 membroj por la numero 105, dum nur 6 membroj por la lasta numero. Mi tutkore deziras multajn manuskriptojn ankaŭ por la venonta numero.

K. Morikawa

Al Vi Kara N-ro 105, eldonita en septembro, 2020

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

### ◎事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話 : 075-343-3120

ブログ : <http://esperanto.jp/kyoto/>

電子メール : [esperanto\\_kioto@yahoo.co.jp](mailto:esperanto_kioto@yahoo.co.jp)

会費 : 正会員 年 7,200 円

準会員 年 3,600 円 (準会員の条件は La Movado 購読)

ゆうちょ銀行(郵便)振替口座 : 01000-4-9895 口座名 : 京都エスペラント会

### ◎Al Vi Kara 編集局

連絡先 : 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎尻江 13-8 森川和徳

電子メール : [kz\\_morikawa@yahoo.co.jp](mailto:kz_morikawa@yahoo.co.jp)

PDF ファイルの保管アドレス <http://goo.gl/FgFEb>

※写真はカラーで閲覧できます。